

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01316

研究課題名（和文）文書群復元と歴史的景観復元の融合による栄山寺および栄山寺領の総合的研究

研究課題名（英文）A Research on historical materials and territory of Eisanji Temple

研究代表者

下村 周太郎（Shimomura, Shutaro）

早稲田大学・文学大学院・准教授

研究者番号：40581822

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,880,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は奈良県五條市（旧大和国宇智郡）に所在する真言宗寺院栄山寺を対象とした、歴史学の立場からの総合研究であり、栄山寺文書諸本の史料調査に基づく文書群復元と、かつて宇智郡の各所に及んだ栄山寺領故地の現地調査に基づく歴史的景観復元とを、2つの柱とする。その上で両者の融合を図る。すなわち、文書史料から抽出される地名などの地理情報と現地調査で得られた景観や土地利用に関する知見との照合を通じて、寺領や境内地周辺における開発の展開を考察するとともに、寺内における文書管理のあり方などとも関連する寺領構造や寺内組織の歴史的変容を追究する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では史料調査と現地調査とを二本柱とするが、新型コロナウイルス感染症の発生で大掛かりな調査は見送らざるを得なかった。それでも、適宜代替的な措置を講じることで所期の目的を一定程度達成することができた。史料調査に関しては、栄山寺・陽明文庫・国立歴史民俗博物館が所蔵する栄山寺文書の原本調査やデジタル撮影を行い、天理大学附属天理図書館が所蔵する旧栄山寺領関連史料も新たに発見できたことで、研究資源の充実化に貢献できた。また、現地調査についても、五條市役所が所蔵する地籍図の調査・撮影とその分析を通じて字塚の復元や字名の比定などを行うことができ、地域の歴史・地理情報の研究資源化に取り組むことができた。

研究成果の概要（英文）：This research is a comprehensive historical study of Eisanji, a Shingon sect temple located in Gojo City, Nara Prefecture. Specifically, the purpose is to conduct research on the historical materials of Eisanji Temple and on-site research on the former territory of Eisanji Temple. By combining the above two researchs, we will clarify the history of Eisanji Temple.

研究分野：日本中世史

キーワード：栄山寺 古代 中世 荘園 寺院 村落 景観 古文書

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は栄山寺を対象とした歴史学の立場からの総合研究である。栄山寺は大和国宇智郡、現・奈良県五條市にある真言宗豊山派の寺院で、創建が奈良時代に遡る国内屈指の古刹である。当寺には国宝・重要文化財を含む建築・梵鐘・絵画・仏像・石造物・経典、そして古文書など貴重な文化財の数々が伝わっている。寺領は古代において宇智郡全域に及び、奈良時代以来連続と蓄積されてきた百数十点（写本も含めればその数倍）に及び文書史料は、中世以降の展開も含め、その様相を雄弁に語っている。寺院と寺領の在り様を古代から近代まで通時的に観察できることは、日本史の全体像を描き出す上でも好個のフィールドと考える。

特に豊富に残る平安時代の寺領関係文書は、古代中世移行期の土地制度や社会経済状況の一般的動向（条里制・荘園制）を析出する史料としてこれまでも活用されてきた。ただし、栄山寺や栄山寺領そのものに関する歴史学的な調査は決して多くない。日本史の全体像をより精緻に描き出す上でも、栄山寺文書などから得られる歴史・地理情報と、かつて寺領が展開していた現地の歴史的景観とを照合した、文字通りの栄山寺／栄山寺領研究を推進することが研究史上の課題だと言えよう。

この課題は今まさに喫緊のものとなっている。全国各地で高度経済成長期の宅地開発や圃場整備事業により前近代に遡りうる景観が激変してきたことは驚言を要しないが、栄山寺／栄山寺領をめぐるのは次のような事態も生じている。第一に、栄山寺近隣の状況から見ておく。境内の背後には小島山という丘陵が広がる。藤原南家始祖で栄山寺本願の武智麻呂の墓（後阿陀墓）にあたり、墓山とも称される栄山寺領の中核である。この山頂部に1980年代、果樹園（国営総合農地開発事業五条吉野地区小島団地）が造成された。また、山麓部では生活様式の変化などもあって、山林の管理が十分に行き届かなくなっている。加えて、以前から計画されていた墓山を貫く栄山寺トンネルの建設が、本研究期間中に開始され、2023年に開通を見た。第二に、栄山寺領全体の状況も見たい。栄山寺の北三キロほどの丘陵部に、1990年代以降、大規模な工業団地（テクノパーク・なら）が造成された。これによる山地の保水力低下への対応から、かつて栄山寺領の主要部を灌漑していた宇智川の改修や灌漑水路の再編が行われた。そのため、従前の灌漑体系や水利慣行の記録化が望まれる。京奈和自動車道の建設が進んだことも、当地の景観を改変する要因となっている。このように、栄山寺／栄山寺領をめぐるのは、近年、景観の大幅な変容が進行しているのである。

2. 研究の目的

上記の学術的・社会的背景を踏まえ、本研究では栄山寺について、史料の研究資源化と歴史的景観の記録化を推進し、研究基盤の構築と研究史の更新を目指す。さらに、成果を地元地域へも還元することで、地域住民の栄山寺に対する理解を深め、貴重な文化財を地域ぐるみで保全・活用していく社会基盤の整備の一助となりたい。

そのために、本研究は栄山寺文書諸本の史料調査に基づく文書群の復元と、栄山寺領故地の現地調査などを通じた歴史的景観の復元とを二つの柱とし、その上で両者の融合を図る。

前者の史料調査に関しては、未翻刻史料の活字化や高精細デジタル写真撮影により栄山寺文書や関連史料の研究資源化に取り組み、栄山寺研究の基盤構築を進めるとともに、栄山寺文書諸本の比較検討などを通して文書の作成・伝来経緯を跡付け、文書群全体の復元や関連史料の発掘を行う。

後者の現地調査に関しては、旧栄山寺領において用水路や耕作地の現況、古代・中世の寺社・石造物の所在地など実地で調査し、関係者への聞き取りや地籍図の調査なども併せて行うことで、灌漑体系・水利慣行や耕作状況の記録化、小地名の比定などを行い、寺領の歴史的景観を遡及的に復元していく。

そして、史料調査と現地調査の融合として、文書史料から抽出される歴史・地理情報と現地調査などを通じて得られた景観に関する知見とを照合し、寺領における開発の展開や寺領構造のあり方とも連動する寺内組織の在り方などについて研究する。これによって、歴史上における栄山寺／栄山寺領の全体像を通時的・総合的に描き出すことを目的とする。

3. 研究の方法

研究計画を策定した応募段階（2019年度）における研究の趣旨は前述の通りであり、当初は旧栄山寺領全域を対象に水利や土地利用について調査を行う予定であった。ところが、実際に研究期間が開始された段階（2020年度）では、全体の趣旨を維持しつつも、具体的な活動内容について一部見直しを余儀なくされた。研究期間の開始とともに、新型コロナウイルス

ス感染症（COVID-19）のパンデミックが発生し、国レベルでも、各研究機関レベルでも厳しい行動規制が敷かれた。加えて、社会的にも人と人との接触を極力避ける風潮が広まり、聞き取りを含む大掛かりな現地調査が事実上不可能となったからである。また、博物館・資料館・図書館等の休館や利用制限も長期にわたり、史料や文献の調査も制約を被った。

そのため、個人や少人数での調査や、遠隔でも可能な史料収集などを中心に活動を進め、将来のための研究基盤の構築、関連史料の研究資源化に重点を置くことにした。特に文書史料調査に関しては、栄山寺・陽明文庫・国立歴史民俗博物館が所蔵する栄山寺文書の原本調査やデジタル撮影などを実施するとともに、天理大学附属天理図書館などが所蔵する栄山寺や、旧栄山寺領・宇智郡に関わる史料の探索も進めた。

一方、現地調査に基づく歴史的景観復元に関しては、栄山寺周辺の旧小島村・宇野村・三在村・住川村エリア（古代佐味条・重坂条）に絞って、灌漑用水や条里制耕地の調査を行った（関係者への聞き取りは感染症拡大防止のため基本的に見送った）。また、旧栄山寺領・宇智郡全体の調査を補完・代替するものとして、五條市役所や奈良地方法務局五條支局が所蔵する地籍図の調査を行い、痛みの激しい前者についてはデジタル撮影を実施するとともに、GIS（地理情報システム）を用いた分析も行った。

4. 研究成果

研究期間最終年度に報告書を刊行した。報告書は第一部「栄山寺と栄山寺文書」と第二部「栄山寺領と宇智郡」とで構成し、第一部には栄山寺の堂舎・境内や伝来文書に関する論稿を、第二部には栄山寺領ないし栄山寺領が広がっていた宇智郡の史料や景観に関する論稿を収めた。当然ながら二つの部にまたがる内容を持つ論稿もあるので、排列はある程度便宜的なものとしてご理解いただきたい。目次は以下の通りである。

巻頭言	...	下村周太郎
第一部 栄山寺と栄山寺文書		
陽明文庫所蔵栄山寺文書について	...	尾上陽介・下村周太郎
陽明文庫所蔵「和州栄山寺之図」の成立時期と栄山寺の「鎮守」	...	下村周太郎
室町前期の栄山寺焼失と復興に関する一考察	...	山口啄実
栄山寺関連史料拾遺	...	下村周太郎
宇智川磨崖碑について	...	三上 喜孝
栄山寺文書目録（稿）	近世・近代における伝来状況の確認	...
	...	下村周太郎・石井伸明・伊藤航平・小池絵千花・高砂大成
第二部 栄山寺領と宇智郡		
天理図書館所蔵栄山寺・宇智郡関連中世文書の紹介	...	下村周太郎・篠原佑典・沼尾和輝・林悠吾・日向寺朋子・山田仁生
足利義満誕生日祈禱料所としての興福寺領大和国宇智郡	...	西尾知己
大乘院尋尊周辺の『五條市史』未収史料	新たな検索ツールを活用して	...
	...	似鳥雄一
室町時代の栄山寺と栄山氏と栄山荘・小島村	...	下村周太郎
『瑜祇経西欠』奥書の「五条」をめぐって	大和の五条か、京都の五条か	...
	...	下村周太郎
五條市役所所蔵の明治地籍図について	...	高木徳郎
GISを用いた明治期栄山寺周辺の景観復原と現地調査	「宇智郡小島村実測全図」所収情報のデータ化作業を通じて	...
	...	赤松秀亮

各論稿の内容を簡単に紹介する。

まず第一部について、 は、陽明文庫が所蔵する栄山寺文書の原本および写本の紹介と調査報告である。原本の紹介にあたっては、本紙の影印・翻刻だけでなく、包紙についても紹介を行い、伝来の過程を論じた。近世に作成された写本についても、これまでほとんど研究の対象とされていないことから、その概要を論じた。 は、陽明文庫に所蔵されている栄山寺文書のうち、「和州栄山寺之図」の詳しい分析である。本絵図は江戸時代に作成された境内絵図であるが、これまで図面そのものは公刊されたことがなかった。今回、初めてデジタル撮影を行うとともに、記載内容のうち「鎮守」に注目して、栄山寺の境内にある「鎮守」が中世から近世へかけて、境内鎮守（栄山荘鎮守）春日社 境内鎮守弁才天 小島村鎮守御霊社と推移することを論じた。 は、正長2年の焼失と永享年間の復興について、『表諷讃雑集』など関連史料を改めて収集・分析した上で検討を行う。 は、『五條市史』に未収録（ないし部分収録）の栄山寺関連史料について、種々の刊本・影印本・論文・データベースなど見出し、編年で採録する。 は、栄山寺の近くに所在し、宝亀九年という奈良時代の年紀を持つことから文化財としても極めて貴重な宇智川磨崖碑について、近世における調査・「発見」の経緯と情報伝播の状況について論じる。 は、近世・近代における栄山寺文書の書写・伝来・採訪の状況を跡付け、栄山寺文書の現況把握を試みる。

次に第二部について は、天理大学附属天理図書館が所蔵する栄山寺や旧栄山寺領に係る

る中世史料として、南都闘乱根元事写（永仁2・3年頃）、讃岐守頼治宇智郡田数注文案（前欠）（応永2年5月日）、阿陀算用状（前欠）（応永3年12月日）、阿陀間田注進状（応永3年12月日）、和州宇智郡御祈祷覚書（応永21年3月日）、板倉勝重・小堀正次・大久保長安連署書状（赤井弥平兵衛宛）（慶長8年9月24日）、堅氏書状（宝幢寺宛）（年未詳12月6日）を翻刻する。 は、南北朝内乱後に足利義満によって春日社に寄進された大和国宇智郡が、義満の誕生日祈祷料所であったことを明らかにする。 は、『大乘院寺社雑事記』などを中心に興福寺大乘院尋尊の関係史料から宇智郡に関する記事を収集し、既存の『五條市史』の不備などを補う。 は、三箇家文書に伝来する永享3年9月付栄山実清言上状を紹介し、そこから室町期における栄山寺と在地領主栄山氏との対立や、栄山寺近隣における村落の展開について論じる。 は、青蓮院門跡吉水蔵『瑜祇経西欠』奥書に見える治承4年の「五条」が大和五条であるとする先行研究を再考し、京都五条である可能性を指摘する。 は、五條市役所に所蔵されている100点余りの地籍図類について、作成年代や記載内容に応じて類型化を行い、全体像の把握を試みる。 は、地籍図や空中写真、五條市が提供する地図情報公開サービスなどを駆使して、栄山寺が所在する旧小島村域の字名・字堺や地番をGIS上で復元する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 西尾知己	4. 巻 50
2. 論文標題 大和国河上荘にみる室町期東大寺の財務運営	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 118-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾知己	4. 巻 19
2. 論文標題 東大寺・興福寺の抗争と室町殿政権	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 中世後期の荘園制 再建と終焉	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鎌倉佐保・木村茂光・高木徳郎編『荘園研究の論点と展望』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 59-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥雄一	4. 巻 -
2. 論文標題 近江国菅浦 惣村研究の最前線	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鎌倉佐保・木村茂光・高木徳郎編『荘園研究の論点と展望』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 177-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 235
2. 論文標題 古代の文字文化とジェンダーに関する覚書 東アジアと地域社会の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 117-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 -
2. 論文標題 墨書土器とは何か	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 吉村武彦・加藤友康・川尻秋生・中村友一編『墨書土器と文字瓦』八木書店	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 29
2. 論文標題 日本古代木簡の型式分類と機能的分類	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 3
2. 論文標題 出土文字資料の集成的研究 平泉出土文字資料へのアプローチ(2) 折敷再利用木簡	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 平泉学研究年報	6. 最初と最後の頁 42-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥雄一	4. 巻 1015
2. 論文標題 中世荘園制の終焉と村落の自治	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾上陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 東京大学史料編纂所所蔵『藤波家蔵文書記録目録』に見える『民経記』原本の構成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『藤波家旧蔵史料の調査・研究』	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾知己	4. 巻 -
2. 論文標題 出世後見からみる中世後期東大寺の別当と惣寺	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『中世東大寺記録出世後見・倶舎三十講関係史料』	6. 最初と最後の頁 15-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木徳郎	4. 巻 -
2. 論文標題 紀伊国における武家領主の地域支配と荘園領主	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 田中大喜編『中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る』 勉誠出版	6. 最初と最後の頁 119-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木徳郎	4. 巻 102
2. 論文標題 環境史研究から生業の実態認識へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 民衆史研究	6. 最初と最後の頁 3-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下村周太郎	4. 巻 48
2. 論文標題 早稲田大学図書館所蔵『広橋家旧記抜粋写』の翻刻 平安・鎌倉・室町期日記・典籍逸文の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 68-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 17
2. 論文標題 韓日木簡からみた古代東アジアの医薬文化	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文	6. 最初と最後の頁 177-195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 26
2. 論文標題 日本出土の古代木簡 -戸籍と木簡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 327-334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 16
2. 論文標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東西人文	6. 最初と最後の頁 301-315
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 -
2. 論文標題 東アジアの木簡	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鈴木靖民監修・高久健二・田中史生・浜田久美子編『古代日本対外交流史事典』八木書店	6. 最初と最後の頁 105-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 -
2. 論文標題 古代日本の論語木簡の特質 -韓半島出土の論語木簡との比較を通して-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶北大学校人文学院HK+事業団研究叢書1 東アジアの論語の伝播と桂陽山城	6. 最初と最後の頁 341-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 -
2. 論文標題 古代日本における人面墨書土器と祭祀	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 慶北大学校人文学院HK+事業団研究叢書2 慶山市所月里木簡の総合的検討	6. 最初と最後の頁 425-438
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 -
2. 論文標題 漢字文化の東アジア的展開と列島世界	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 吉村武彦・川尻秋生・松木武彦編『地域の古代日本 東アジアと日本』KADOKAWA	6. 最初と最後の頁 169-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 232
2. 論文標題 出土文字資料から見た払田柵の機能	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 277-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下村周太郎	4. 巻 735
2. 論文標題 大和五條の墓山 (藤原武智麻呂墓)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史学研究月報	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下村周太郎	4. 巻 46
2. 論文標題 新刊紹介 岡野浩二著『中世地方寺院の交流と表象』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 似鳥雄一	4. 巻 845
2. 論文標題 あらためて村落とは何か 大山喬平・三枝暁子編『古代・中世の地域社会』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 56-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西尾知己	4. 巻 142
2. 論文標題 南北朝から室町期の矢野荘における東寺衆中と給主	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関東学院大学人文学会紀要	6. 最初と最後の頁 209-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西尾知己	4. 巻 44
2. 論文標題 中世後期強訴論の整理と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関東学院大学人文科学研究所報	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木徳郎	4. 巻 4
2. 論文標題 10世紀末～11世紀の気候変動と荘園の認定	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『気候変動と中世社会(気候変動から読みなおす日本史4)』(臨川書店)	6. 最初と最後の頁 241-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木徳郎	4. 巻 1
2. 論文標題 景観論・開発史研究と気候変動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『新しい気候観と日本史の新たな可能性（気候変動から読みなおす日本史1）』（臨川書店）	6. 最初と最後の頁 150-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 24
2. 論文標題 日本出土の古代木簡 古代地域社会における農業経営と仏教活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 木簡と文字	6. 最初と最後の頁 347-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三上喜孝	4. 巻 221
2. 論文標題 韓国出土木簡にみえる海産物とその加工品	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 123-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高木徳郎
2. 発表標題 地域資料の教材化と歴史研究
3. 学会等名 第23回静岡歴史教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 下村周太郎
2. 発表標題 日本の中世国家と社会的危機 鎌倉時代の疫病・飢饉と撫民を中心に
3. 学会等名 名古屋歴史科学研究会2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高木徳郎
2. 発表標題 荘園絵図と景観の魅力
3. 学会等名 全国中世荘園サミット
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 尾上陽介
2. 発表標題 修理を終えた史料から
3. 学会等名 陽明文庫講座
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 高木徳郎（共編著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 荘園研究の論点と展望	

1. 著者名 三上喜孝（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 国立歴史民俗博物館	5. 総ページ数 254
3. 書名 いにしえが、好きっ！ -近世好古図録の文化誌-	

1. 著者名 尾上陽介（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 240
3. 書名 古文書の科学	

1. 著者名 尾上陽介（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 450
3. 書名 禁裏・公家文庫研究 第九輯	

1. 著者名 尾上陽介（共著）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 藤原印刷	5. 総ページ数 46
3. 書名 陽明文庫講座図録 4	

1. 著者名 尾上陽介ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 36
3. 書名 陽明文庫講座図録2 (東京大学史料編纂所研究成果報告2020-2)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高木 徳郎 (Takagi Tokurou) (00318734)	早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	尾上 陽介 (Onoe Yousuke) (00242157)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	三上 喜孝 (Mikami Yoshitaka) (10331290)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・教授 (62501)	
研究分担者	西尾 知己 (Nisio Tomomi) (20453996)	関東学院大学・国際文化学部・准教授 (32704)	
研究分担者	似鳥 雄一 (Nitadori Yuichi) (30719521)	高千穂大学・商学部・准教授 (32637)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------